

活動名	団体名	日本語教室ピース
広島県居住の外国人に対する日本語学習機会の提供と異文化理解を深める交流	地域	広島県東広島市
	代表者	代表 岩井 実里
	支援金額	15万円
活動概要		
<p>外国人居住者の生活を言葉の面で支援することを主な目的とし、毎週土曜日にひろしま国際センターにて、約2時間の日本語教室を開催した。</p> <p>授業は、レベル別の4クラス制で、クラスごとに決めたトピックシラバスに沿って、日本の生活で役に立ち、普段の生活にも反映できる日本語の表現や、学習者同士、また教師も交えて、楽しく会話できるようなテーマを取り入れた授業を展開し、学習者が広島の地で生活する上での支援を行った。</p> <p>また、前期の最後には、半年間の集大成として各クラスでのお楽しみ会を実施し、それまでの授業で学んだ表現をフル活用した「スペシャル自己紹介」や日本の文化に触れ、文章を書く体験として「暑中見舞いづくり」等を行った。後期の最後には、全クラス合同で交流会を実施し、他のクラスで日本語を学ぶ学習者や普段クラスに参加していない地域の日本人とも日本語で交流する機会を設けた。</p> <p>◆実施時期 授業の日時:毎週土曜日 13:00~14:50(50分×2コマ・休憩10分) (会場設営・授業の反省会を含めると、12:30~15:30) 場所:ひろしま国際センター 交流ホール(広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F)</p> <p>◆参加人数 学習者:468名 ボランティア教師:248名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:716名</p>		



宮島観光(神社についての説明)



交流会(ゲーム)



交流会(集合写真)



授業風景

◆実施に伴う効果

地域日本語教室の役割の一つとして、日本語表現を提供するだけでなく、広島の地に住む日本語学習者同士、また、日本人ボランティア教師との交流の場として活動することができた。例えば、授業の合間には教師が学習している言語を学習者が教える様子が見られ、「教え合い」の関係を構築したり、教室で知り合ったことをきっかけに、一緒に買い物に出かけたり、学習者の良き相談相手となったりして、言葉の面だけでなく、生活そのものについても助け合うきっかけづくりを行った。また、学習者やその家族が経営するレストランについて話を聞き、実際に近くに住む他の学習者が利用したり、学習者が近所のお店についてボランティアに紹介したりする等して、地域の情報交流を盛んに行うこともできた。また、私たちの活動を知り合いからの勧めやインターネットのページ等で知り、日本語教育に興味を持つ学生が教室を見学しに来ることも多くあった。彼らの多くは、日本語教育の現場を初めて見るということで、私たちの活動について少しでも知ってもらうことで、広島という地域の外国人居住者の様子や日本語教育の実態について地域住民に知らせる機会になったのではないかと考えている。

◆苦労した点

上記にもあるように、教師数の不足により、授業を担当する回数が増加し、授業準備に必要な費用や、会場までの交通費の負担が増えてしまった。しかし、その反面、一人一人の経験が増え、クラスの運営や授業に対する積極性も大きくなり、それぞれの成長にはつながったのではないと思う。さらに、このような現状をきっかけに個人的に地域日本語教育の研修会や勉強会に参加する者も増え、精力的に活動することができた。

教師数の不足の原因として、外部への PR 不足が挙げられる。今年度は、ボランティアが所属している大学を中心とした広報活動のみにとどまってしまったため、現在は、来年度の活動に向けて私たちの活動と教師を募集する旨を記載したちらしやカードを作成し、広報活動を充実させるべく努力している。また、毎年恒例の交流会には、地域の人や学習者の友人などにも参加してもらいたいと考えており、授業内での大々的な告知を予定していたが、前週の大雪でクラスが中止になったことも影響し、事前に十分な告知と参加者集めをすることができなかった。そのため、昨年度より、普段クラスに関わっていない方の参加は少なくなってしまった。来年度も同様の会を設ける予定であるので、このような事態にも備え、早めの告知を心がけることや会場となるひろしま国際センターの方にも協力をお願いし、より多くの方に参加していただけるよう準備をしていきたい。

◆今後の課題・発展の方向性

来年度から本格的にひろしま国際センターからの独立運営形態となるため、毎回の授業開催の度に会場費が必要となる。よって、活動費を新たに工面しなければならない。そして、会場の倉庫も使用できなくなるため、教材や資料の保管場所について、新たな保管場所とシステムを導入する必要がある。このような状態で活動を継続するのは大変困難なことであり、再度学習者のニーズを把握し、「日本語教室ピース」の必要性を問い直し、今後の運営について改めて方針を考える必要がある。

また、より良い授業を行うために、授業教案や教材の共有を行い、過去の資料をストックする方法を導入する予定である。授業内容について共有することで他のボランティア教師の授業から学んだり、既習項目について確認し次の授業案を検討したりする際に役立てることができると考えている。

私たちにとってこの「日本語教室ピース」は学習者の生活を言葉の面で支援する場であるとともに、学習者や他大学・他学年の教師との交流の場や日本語教師を目指すものとしての成長の場でもあるため、多面性を持った非常に有意義な場であるといえる。クラスの問題点を解決し、今後も学習者のニーズに寄り添ったクラス運営を継続することで、私たちにしかできない日本語教室をつくり、発展させていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

今年度は昨年度の活動を継続するとともに、マツダ財団の支援により、より充実した活動を実施することができました。

改善すべき点は多々ありますが、地域の学習者に寄り添った日本語教室としてさらに発展させられるよう今後も活動を続けていきたいと思えます。